

## 読書のすゝめ その① 新書【入門編】

こんな時こそ、**新書**を読んでみませんか？今回は入門編として読みやすい本を選んでみました。すべて本校の図書館に所蔵しています。読み終わった後、目の前の世界が少し広がって見えるはず。

### 新書について知ろう！

#### ① 新書ってどんな本？

⇒教養として身につけておきたいテーマを、大学教授やジャーナリストなど**その道に精通した著者が初心者にも分かりやすいように書いた入門書**。持ち運びに適した形（新書判と言います）で価格帯もリーズナブルなことから、教養を求める様々な年齢層に読まれています。☆新しい本（新刊本）と混同しないように注意！

#### ② なぜ読んでおくと良いの？

司書が思う新書のメリットは以下の4点！

- ① 専門家による**質の高い知識**が**コンパクト**にまとめられている。
- ② **隙間時間**に読み進められる。
- ③ 論理的な文章を読み解くことで、**読解力**が身につく。
- ④ 一冊のうちに、様々なテーマ、キーワードがちりばめられており、「**知識欲**」を刺激される。



“（新書は、）一冊を読めば、よりレベルの高いものを二冊、三冊と読みたくなる。

そうした吸引力がある” 斎藤孝/著『読書力』岩波新書 より)

#### ③ 新書を読むにはどうしたらいい？

実は、皆さんが思っている以上に新書の発行数は多く、毎月様々な出版社から発行されています。出版社やレベルによって、読みやすさや難易度などが異なるため、まずは中高生向けの新書である「岩波ジュニア新書」や「ちくまプリマー新書」をおすすめしています。

本校図書館には、新書を集めた新書コーナーを設置しています。どんな新書を読めばいいか迷ったらぜひ司書に相談してみてくださいね。

## 友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える

菅野 仁/著 ちくまプリマー新書



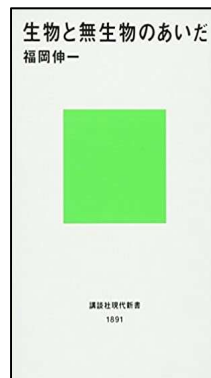
日本の高校生は「一生付き合える友人を得たい」「人間関係を豊かにしておきたい」という「友人重視傾向」が他国より突出して高いのに、友人関係に悩み、「**友達疲れ**」を感じる人も多いと社会学者である著者は説く。

社会学の手法や考え方をいながら現代社会を再認識し、**人と人のつながり**を捉えなおす。

## 生物と無生物のあいだ

福岡伸一/著

講談社現代新書



ウイルスは生物か、無生物かという問いにどう答えますか？

「生命とは何か」という生命科学最大の問いに、分子生物学者はどう答えるのか。現在形の生命観を探る。

話題となったコロナウイルスに関する論考(朝日新聞 HP)も併せてどうぞ。

[https://www.asahi.com/articles/ASN433CSLN3VUCVL033.html?ref=pc\\_rellink\\_04](https://www.asahi.com/articles/ASN433CSLN3VUCVL033.html?ref=pc_rellink_04)

## わかりあえないことから

### コミュニケーション能力とは何か

平田オリザ/著 講談社現代新書



就職活動や入試で求める人材としてよく挙げられる「**コミュニケーション能力**」って一体なに？

文科省のコミュニケーション教育にも携わった戯曲家が、演技論・言語論、教育論などをベースに、「**わかりあえない**」他者との対話について論じます。

## 目の見えない人は世界をどう見ているのか

伊藤 亜紗/著 光文社新書



美学と現代アートを専門とする著者が、視覚障害をもった方々へのインタビューを行い、「空間」「感覚」「運動」「言葉」「ユーモア」の5観点から「**目**という器官や**他者との交わり**」を捉え直した一冊。

有名国立付属高校の高校入試で出題されたことでも話題になりました。

## 知の体力

永田和宏/著 新潮新書



‘私たちのこれからの時間、将来の人生に起こることは、すべて想定外のことなのである。想定外の事態を、なんとか自分だけの力で乗り越えていかなければならない。生きるとはそういうことである。運動をするにはそれなりの基礎体力をつけないければならないのと同じように、これから何が起きかわからない想定外の問題について自分なりに対処するためには、それなりの体力が要求される。私はそれを「**知の体力**」と呼んでいる。’

「知の体力」をつけ、一生学びつづけるための考え方が詰まった一冊。

## 命の格差は止められるか

### ハーバード日本人教授の、世界が目にする

イチロー・カワチ/著 小学館新書



ハーバード大学公衆衛生大学院教授である著者がアメリカで目の当たりにしたのは、人種や職業、住む場所によって長生きの人と早く亡くなる人達が国内ではっきり分かれている、という「**命の格差(健康格差)**」だった。そして、長寿大国・日本にもその危機が迫っているという。

所得・教育・労働・人間関係…あらゆる側面から格差を分析し、未来への可能性を探る。